



## 北村 真奈美 (きたむら まなみ)

## 活断層・火山研究部門 地震テクトニクス研究グループ

2016年10月より産総研特別研究員として活断層・火山研究部門地震テクトニクス研究グループに配属となりました。北村真奈美と申します。私は、広島大学理学部地球惑星システム学科を卒業し、同大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻の修士課程を経て、2016年9月に同大学院にて学位を取得いたしました。

専門は実験岩石力学・構造地質学です。博士課程までは、南海トラフに関連する断層帯・断層周辺地質体について、研究を行ってきました。修士課程までは、炭質物(ビトリナイト)を用いて四万十帯の温度構造や断層帯の摩擦発熱温度について研究を行ってきました。博士課程では、南海付加体堆積物の強度と変形様式の深度変化を調べました。産総研着任後は、超臨界流体が存在する高温花崗岩体を対象に、超臨界地熱開発に伴う誘発地震発生のメカニズム解明を目指して実験的な研究を行っていま

す。今後も継続して、超臨界条件下における花崗岩の力学的・水理学的特性を明らかにしていこうと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



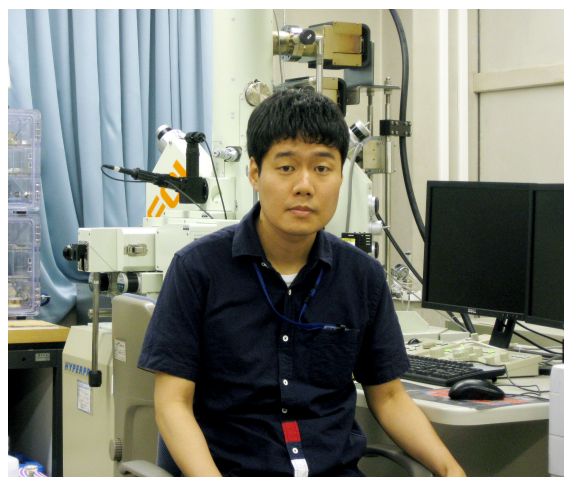
## 向井 広樹 (むかい ひろき)

## 地圏資源環境研究部門 鉱物資源研究グループ

2017年4月より、産総研特別研究員として地圏資源環境研究部門鉱物資源研究グループに配属されました。向井広樹と申します。私は、東北大学理学部地球惑星科学科を卒業し、修士課程から博士課程までを東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻において学び、2011年3月に学位を取得いたしました。学位取得後はドイツのミュンスター大学、東京大学理学系研究科でのポストクを経て現在に至っております。

これまでは生体鉱物における炭酸カルシウム、変成岩中の斜長石、2011年の福島原発事故によって汚染された土壌中の粘土鉱物など多様な対象について電子顕微鏡を中心とした手法によって研究を行ってきました。産総研におきましては、まずこれまでの経験を活かし、鉱床で採取された鉱石等についての詳細な解析を行うとともにフィールドでの調査にも多く参加することで地球惑星科学者としての視野

を広げていきたいと考えております。どうぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。





## 中村 佳博 (なかむら よしひろ)

地質情報研究部門 地殻岩石研究グループ

2017年4月より任期付研究員として地質情報研究部門地殻岩石研究グループに配属になりました中村佳博と申します。2008年に新潟大学理学部地質科学科に入学後、学位を取得する2017年まで同大学にて研究を行ってまいりました。

専門は変成岩岩石学・鉱物学・構造地質学です。卒業～修士課程では日高山脈にて野外地質調査を基に変成岩の変形・変成史の構築を行ってきました。この研究では岩石学中に含まれる炭質物の結晶構造に注目することで極低温～低温での変成作用の詳細な解析に応用することを目指しました。博士課程では、野外地質調査ベースの研究に加えて、高温高圧下における炭質物からグラファイトへの反応速度実験を行いました。圧力(～1GPa)を加えることで炭質物の活性化エネルギーが大幅に低下することを発見し、変成岩中での石墨化を説明できる可能性を議論しました。

今後は、これまでの野外地質調査の経験を生かし、長野県大鹿村周辺の1/50,000「大河原」地質図幅の作成を目指していきます。専門に研究を行っている炭質物は様々な研究分野とも関連しており、多くの方々と活発な研究議論や新しいアイデアを交流できればと思います。これからどうぞよろしくお願い致します。



## 大西 里佳 (おおにし さとか)

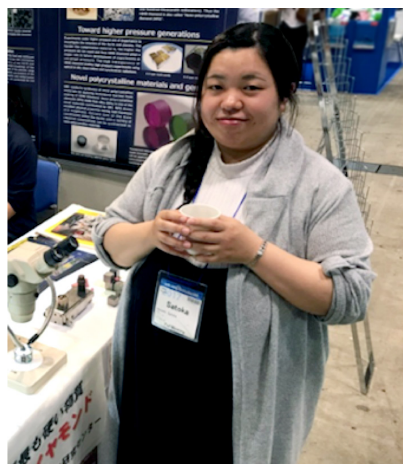
活断層・火山研究部門 マグマ活動研究グループ

2017年4月より、イノベーションスクール11期ポスドク生として活断層・火山研究部門、マグマ活動研究グループに配属となりました、大西里佳と申します。この3月に愛媛大学の地球深部ダイナミクス研究センターで学位を取得しました。

これまでは、レーザー加熱ダイヤモンドアンビルセルを用いた下部マントル物質の溶融関係の解明、特に最も基本的な組成であるMgO-MgSiO<sub>3</sub>系に関する研究を行ってきました。地球内部物質の溶融関係を明らかにすることは、地球の進化の過程及び、現在の地球内部構造を明らかにする上で非常に重要です。そこで本研究では、新たな実験手法を確立し、下部マントル全圧力領域におけるMgO-MgSiO<sub>3</sub>系の溶融関係の解明に世界で初めて成功しました。

私がこれまで身につけてきた溶融実験及び、分析技術に関する知識・技術は、圧力こそ異なりますが、火山・マグマ活動に関する研究に活かせると思って

おります。そこで、この一年でガス圧装置を用いた火山噴出物の溶融実験を行い、火山噴火直前のマグマ溜まりの条件を制約する等の研究を行っていきたく考えています。今後とも、よろしくお願い致します。







## 白濱 吉起 (しらはま よしき)

活断層・火山研究部門 活断層評価研究グループ

活断層・火山研究部門、活断層評価研究グループの白濱と申します。これまで、同グループに特別研究員として2年間在籍しておりましたが、今年度より任期付き研究員として採用されました。

登山が趣味で、山を歩いているうちに地形の成り立ちに興味を持ちまして、変動地形学を専門として学んできました。博士課程までの研究では、チベット高原を対象に変動地形の判読と活構造のマッピング、宇宙線生成放射性核種を用いた表面照射年代測定による地形の形成年代推定を行ってきました。そうした能力を生かして、これまで産総研では十日町断層帯や熊本地震に関わる調査を行いました。今後とも引き続き国内の活断層評価に関わる研究を進めていきます。

産総研での活断層に関わる業務は私自身の研究とつながりが深く、大変楽しく調査・研究を行うことができます。着実な業務遂行がそのまま自身の

成果へと繋がるという、大変恵まれた環境ですので、皆様方と協力しつつ引き続き頑張っていきたいと思っております。まだまだ研究者として未熟な点も多く、ご迷惑をおかけすることと思っておりますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



## 遠山 知亜紀 (とおよま ちあき)

地質情報研究部門 資源テクトニクス研究グループ

2017年4月より、主任研究員として地質情報研究部門資源テクトニクス研究グループに配属になりました。遠山知亜紀と申します。私は、学部から博士課程まで学習院大学で学び、2012年3月に学位を取得しました。その後、同大学に2年間、そして、JAMSTECの地球内部物質循環研究分野に3年間ポスドクとして所属しておりました。

専門は化学・地球化学・環境化学で、特にハロゲンをトレーサーとして用いた研究を行っています。これまでの主な研究は、キンバーライトとその捕獲岩のハロゲン分析で、その結果から地球内部の化学的不均質や物質循環に関する考察を行いました。環境化学的研究としては、核実験・原子力事故・再処理施設の稼働によりに放出される放射性ヨウ素( $^{129}\text{I}$ )の環境中の経年変化やその起源の推定の研究を行いました。福島原発事故後は放射性ヨウ素( $^{131}\text{I}$ )の土壤汚染マップの作製を行いました。その

他、共同研究として、生物タンパク質中ヨウ素を用いた生物進化に関する研究なども行ってきました。

今後はこれまでの経験を活かし、ハロゲン組成や同位体比を用いた資源ポテンシャル評価の指標開発を行っていきたく思います。宜しくお願い致します。

